

第三寮寮歌（旅人の夢）

室伏 増男 作詞

本橋 昌雄 作曲

一. 東の空の 明け初めて
夢多かりき 夜の星の

^{よわい}
齢を数う 程だにも

彼方に遠き 白妙の
芙蓉が峰を 仰ぎ見つ

二. 友よ急ぎの 旅なるか
憩いてゆかむ 寮の岸に
流るる水と 行水の

^{はて}^と
果をぞ訪えば 奇すしきの

君との^{えにし}縁に 思いあり

三. 行く末花は 我知らじ
今朝君風の 舞う如く
熱き血潮の 呼ぶ夢は
高嶺の枝と 手折るべし
龍の頸の 玉を得ん

四. 暗き潮に 驚きて
何処に流る 我が命
はかなき砂上の 夢なれば

崩れて消ゆる ^{さだめ}運命なり
真の楼を 築かずや

五. 嘆きの中に 涙あり
求めしものは 情ならず
鈴懸の葉の 枯れはてて
君と迷いし 三浦路に
遥かに白き 雲を恋う

六. 夕べ弘明の 鐘の音に
誰か聞くらん 世の無常

^{いにしえびと}
古 人の 言の葉に

名もなき道を 問う勿れ
名もなき旅を 行く勿れ

七. 揚柳の曲 今止みて
白彊の庭に 月ぞ佳し
一夜の夢は 結ばずも
汝の胸に 灯をともし
若き生命を 照らし見ん